

伊久身・大長地域

1 地域の将来像

「人と自然と文化が調和するふれあいのまち」

2 地域づくりの目標

(1) 各地域の特性を活かしたまち

伊久身地域には農林業を主要産業とする12の集落、大長地域には農業を主要産業とする3つの集落があり、それぞれの地域に歴史や文化、暮らし方などの特性があります。そのため、共通する豊かな自然環境の保全・活用を図りながら地域特性に応じたまちづくりを目指します。また、集落間のネットワークの形成を図ることで、まとまりのあるまちづくりを推進します。

(2) 市民がふれあい健やかに暮らせるまち

自然環境や歴史・文化資源等の地域資源を最大限に活用するとともに、それぞれの資源を通して市民がふれあいながら、健やかに暮らせるまちづくりを目指します。

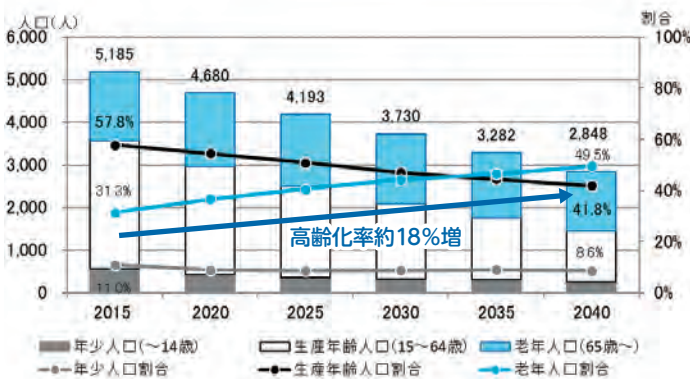


3 伊久身・大長地域の概況

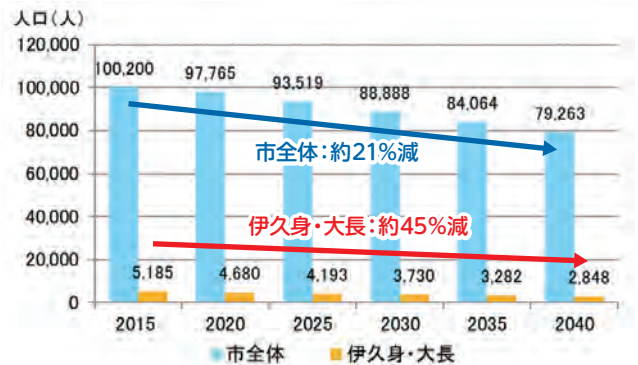
(1) 位置・人口

- ・伊久身・大長地域は、本市の北部に位置し、北側は川根地域、南側は中心地域、東側は藤枝市に接し、西側は大井川に面しています。
- ・本地域は豊かな森林を有しており、多くが都市計画区域外となっています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約45%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で約18%増加し、2040年には約50%になることが予測されています。

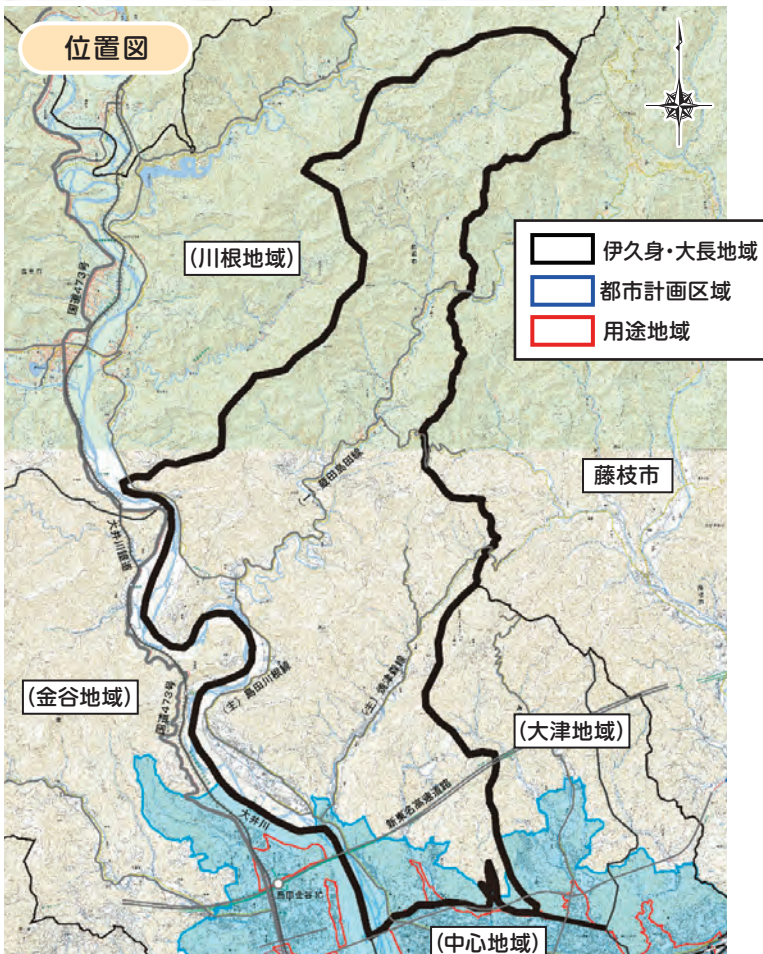
伊久身・大長地域の人口推移予測 (2015→2040)



市全体と伊久身・大長地域の人口推移の比較 (2015→2040)



出典：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン令和元年度改定版

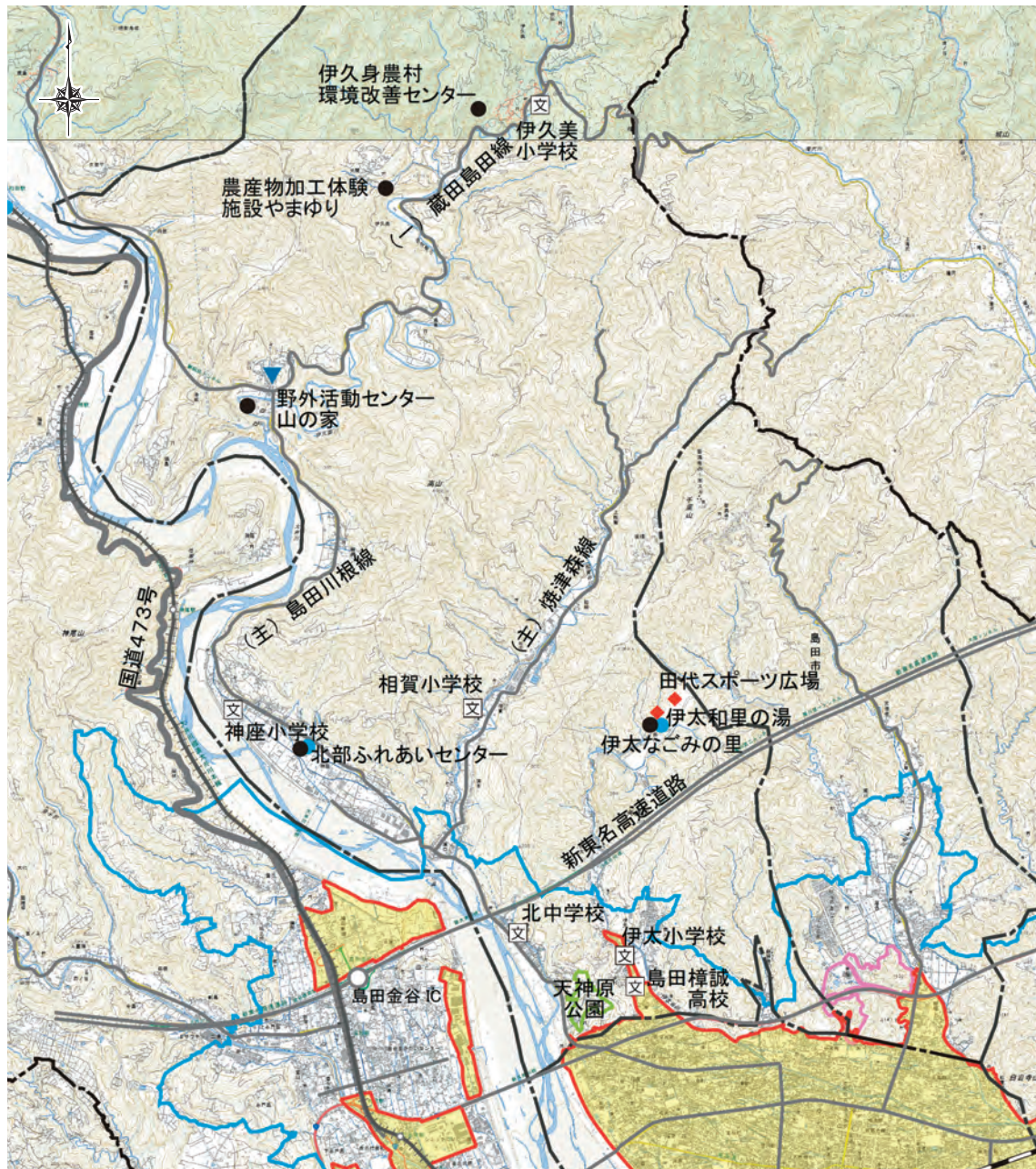


国土地理院 1/25,000 地形図を加工

(2) 都市施設・公共公益施設などの状況

- ・幹線道路として、(主)島田川根線、(主)焼津森線、(一)蔵田島田線が骨格を形成しています。
- ・幹線道路沿いの集落地に公共公益施設が分布しています。
- ・野外活動センター山の家、農産物加工体験施設やまゆり、伊太和里の湯など、観光・交流施設が立地しています。

都市施設・公共公益施設図



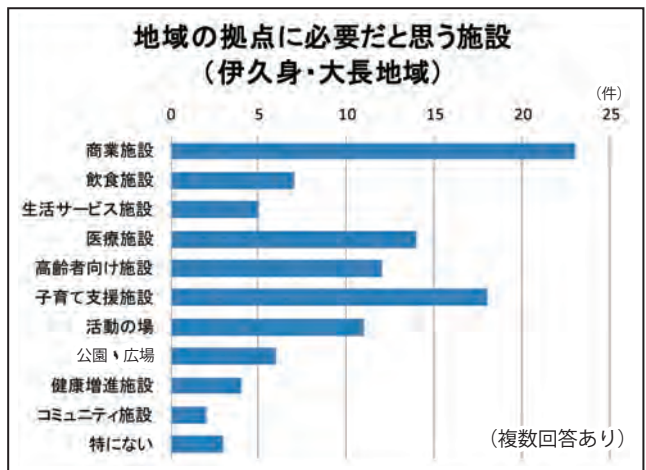
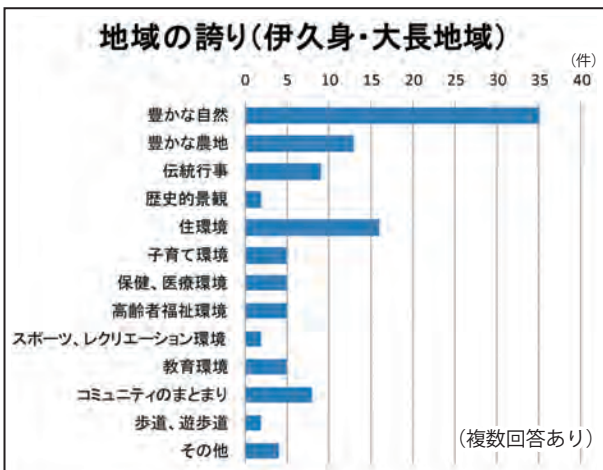
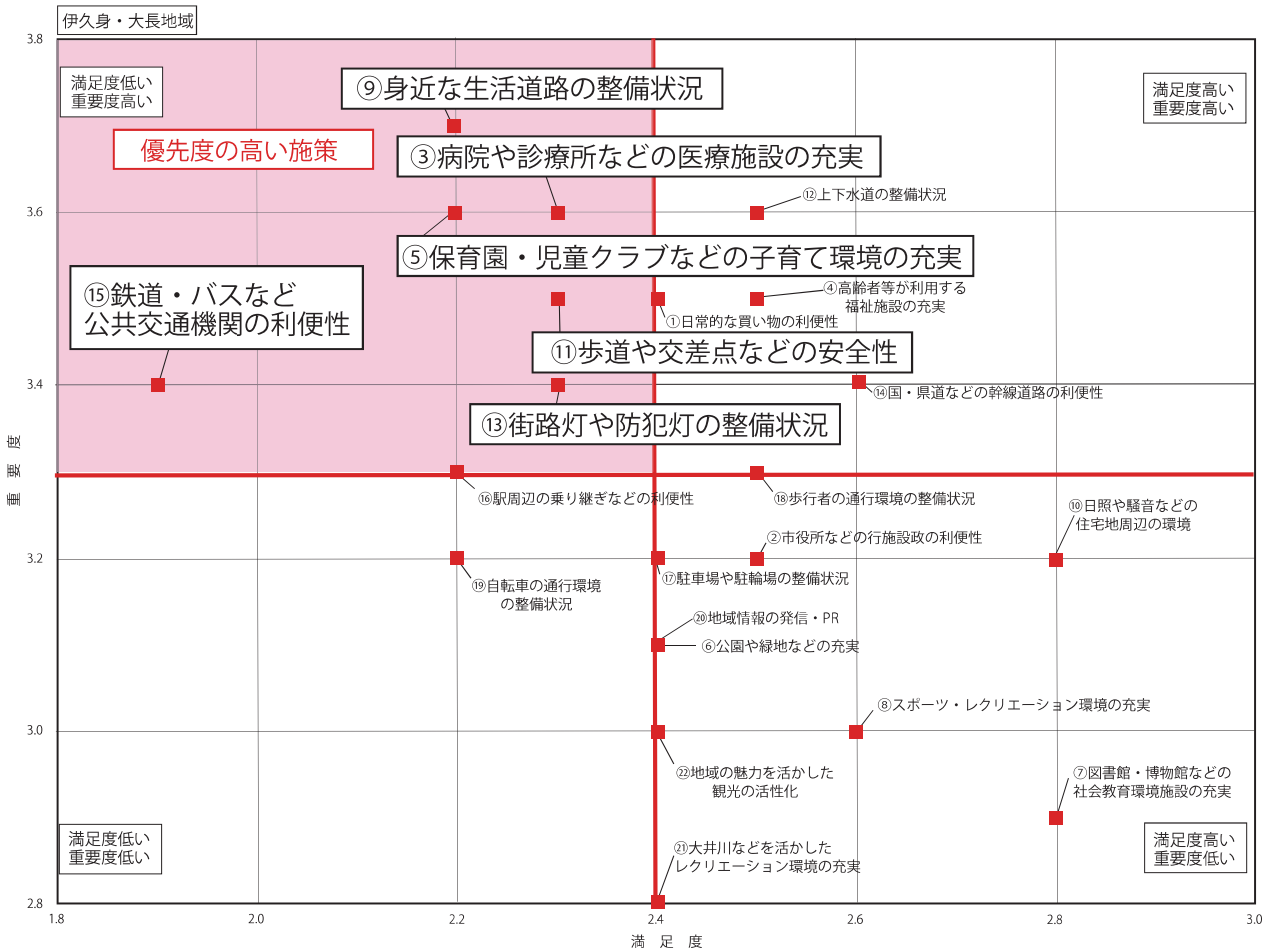
— 主要道路	▼ 幼稚園・保育園
■ 都市計画公園	● 高齢者福祉施設
■ 一部整備済	□ 伊久身・大長地域
□ 学校	■ 都市計画区域
● 主要な公共公益施設	■ 用途地域
◆ 歴史・文化・観光施設	



(3) 都市計画マスタープラン市民意識調査結果 (伊久身・大長地域回答数46)

- ・地域のまちづくりにおける重要度・満足度から読み取れる優先度の高い施策については、生活道路の整備、子育て環境の整備、医療施設の充実、公共交通機関の利便性、防犯灯や歩行者の通行環境の整備などが挙げられています。
- ・地域の誇りについては、「豊かな自然」、「住環境」、「豊かな農地」、「伝統行事」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「商業施設」が最も多く、次いで「子育て支援施設」、「医療施設」、「高齢者向け施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 伊久身・大長地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

- ・集落拠点：伊久美小学校周辺、北部ふれあいセンター周辺

【軸】

- ・自然の骨格軸：大井川
- ・拠点間連絡軸（道路）：（主）島田川根線
- ・集落間連絡軸（道路）：（一）蔵田島田線



5 伊久身・大長地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、集落拠点を中心に、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図る必要があります。
- 道路整備・維持管理を進め、地域の交通環境の改善を図る必要があります。
- 効果的・効率的な地域公共交通網を形成する必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、まとまった農地などの保全・活用を図る必要があります。また、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。



6 地域づくりの方針

【伊久身・大長地域】

(1) 拠点づくりの方針

ア 集落拠点における生活サービスやコミュニティの維持

伊久身地域の集落拠点については、現在の伊久美小学校周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

大長地域の集落拠点については、北部ふれあいセンター周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

伊久美小学校



北部ふれあいセンター



(2) 土地利用の方針

ア 集落地環境の保全

集落地については、自然と調和した暮らしを望む市民ニーズを踏まえ、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

イ 空き地・空き家の利活用

今後、増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションなどにより地域住民の交流の場などとしての活用や所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

(3) 交通の方針

ア 地域内の道路整備

地形的制約を踏まえ、伊久身・大長地域と中心市街地及び他地域を結ぶ県道について、道路整備を県に働きかけるとともに、災害時の避難路の確保を図ります。

イ 生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえつつ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設（ガードパイプ）、路面標示などの整備を推進します。



ウ 交通結節点の整備

野外活動センター山の家や北中学校敷地において、バスなどの乗り継ぎの利便性を高める取り組みに努めます。

エ バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、スクールバスの混乗利用を推進するとともに、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的にはICTなどを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

ア 水害対策の推進

大井川については、「大井川水系河川整備計画」に基づき必要な改修を国に働きかけます。また、伊太谷川、相賀谷川、伊久美川については緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

イ 土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

ウ 治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

エ 学校などにおける地域交流機能の充実

将来学校の統合により生じる跡地の建物や土地については、地域ニーズや立地特性を踏まえ、効果的な活用を検討します。

北部ふれあいセンターについては、生涯学習や市民活動・交流の拠点として維持・充実に努めます。



(5) 活力・魅力づくりの方針

ア 自然体験の場の充実

地域資源を活用した魅力づくりについては、農産物加工体験施設やまゆり、やまめ平などを活用し、農林業体験やグリーンツーリズム等の交流事業を促進します。

農産加工体験施設やまゆり



やまめ平



イ 野外活動センター山の家の活用

野外活動センター山の家については、豊かな自然や地域の魅力を体験できる場として、関係機関への働きかけによる施設の充実、一層の活用、市民を中心とした適正な維持管理に努めます。

野外学習センター山の家



ウ 大井川河川敷の活用

大井川河川敷の活用をはじめ、各種スポーツ施設を充実するとともに、各種団体や組織などの横の連携を図りながら、地域間の「ひと・もの・情報」の交流を活発にする取り組みについて支援に努めます。

大井川河川敷内の各地域のスポーツ広場の整備に努め、大井川マラソンコースの延伸整備が図られるよう、関係機関に働きかけます。また、大井川マラソンコースの整備に合わせ、沿道の多目的広場や遊歩道などの整備を検討します。

エ 自然・歴史資源のネットワークの形成

地域内に存在する歴史資源や自然資源などをつなぐ散策道については、田代の郷温泉伊太和里の湯を活用した観光ルートの情報発信に努めます。また、千葉山へ向かう歩行者ネットワークについては、展望・休憩ゾーンなどハイキングコースとして適切な管理に努めます。

オ 田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場の整備・活用

田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場については、幅広い年齢層の方の健康づくりの場として活用します。また、スポーツエリアについては、市民ニーズを把握しつつ、スポーツ施設の整備を検討します。

(6) 環境との調和の方針

ア 農業環境の保全

本市の基幹作物である茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

イ 森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対し必要に応じて支援します。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を促進します。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。



伊久身地域 将来構想図



大長地域 将来構想図



	都市計画区域		以下、構想に係わるもの
	用途地域		集落拠点
	住宅地		観光・交流ゾーン
	住工共生地		交通結節点
	集落地		都市計画道路(※未整備区間を含む)
	森林・緑地		その他の主要道路
	農地		公園緑地(※未整備・都市公園緑地以外を含む)
	学校(現況)		公共交通拠点間路線(多様な交通手段)
	主要な公共施設(現況)		公共交通地域間路線(多様な交通手段)
	歴史・文化・観光施設		歩行者・自転車ネットワーク



川根地域

1 地域の将来像

「お茶と桜が織りなす四季の自然を体感できるまち」

2 地域づくりの目標

(1) 豊かな自然と共生しながらゆったりと暮らせるまち

森林や大井川などの豊かな自然と共生しながら、ゆったりと暮らせるまちづくりを目指します。

(2) 茶畑や桜などの四季の自然を体感できるまち

地域の特徴である茶畑や桜の保全・活用を図るとともに、豊かな自然環境を活かしたアクティビティ等を充実させることにより、四季の自然を体感できるまちづくりを目指します。

(3) 温泉や野守の池などの観光資源を活かしたにぎわいのあるまち

川根温泉や野守の池、大井川鐵道のSLなどの観光資源の活用を図りながら、各拠点のネットワークの強化を図ることで、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

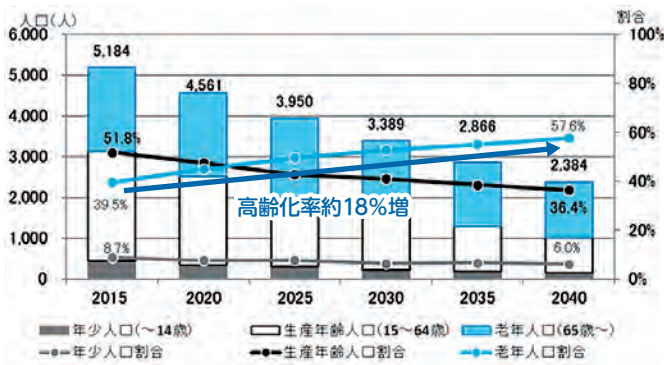


3 川根地域の概況

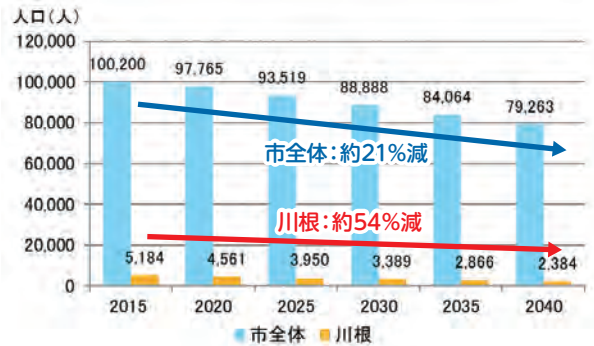
(1) 位置・人口

- ・川根地域は、本市の最北部に位置し、北側は川根本町、東側は藤枝市・静岡市、西側は浜松市・森町に接し、地域の中心を大井川が縦断しています。
- ・本地域全域が都市計画区域外にあり、豊かな森林を有しています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約54%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で約18%増加し、2040年には約58%になることが予測されています。

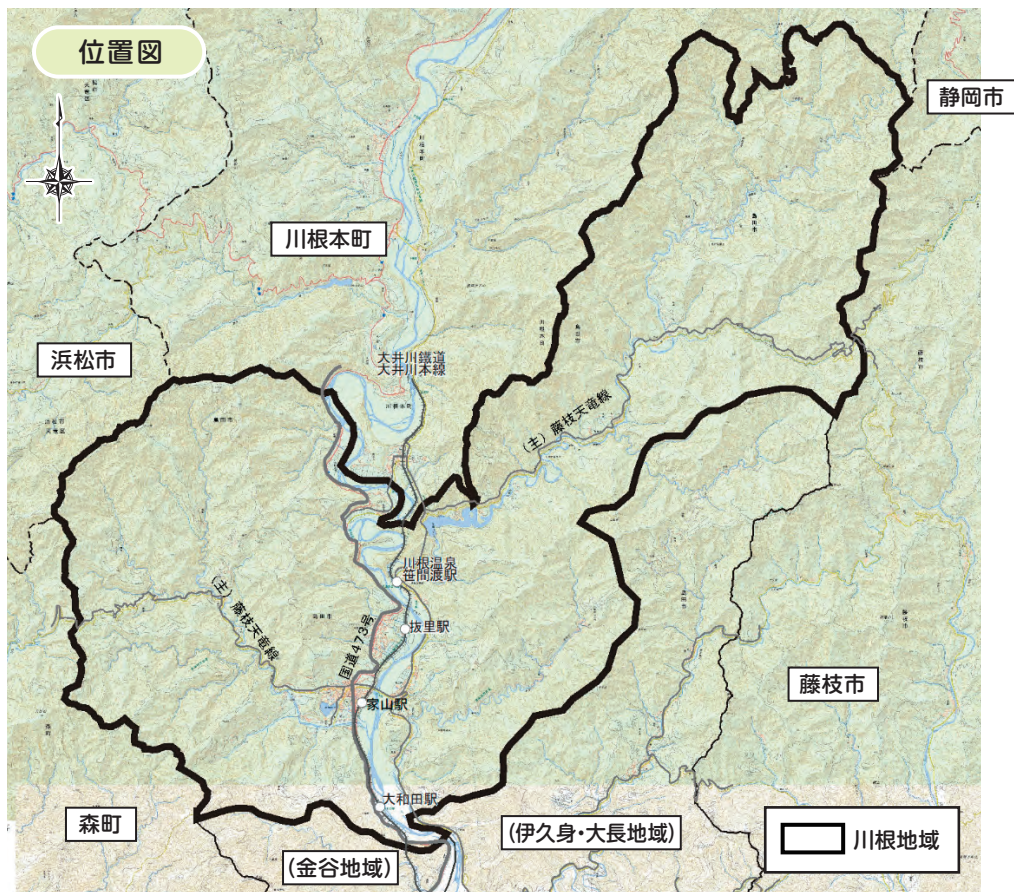
川根地域の人口推移予測 (2015→2040)



市全体と川根地域の人口推移の比較 (2015→2040)



出典：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン令和元年度改定版

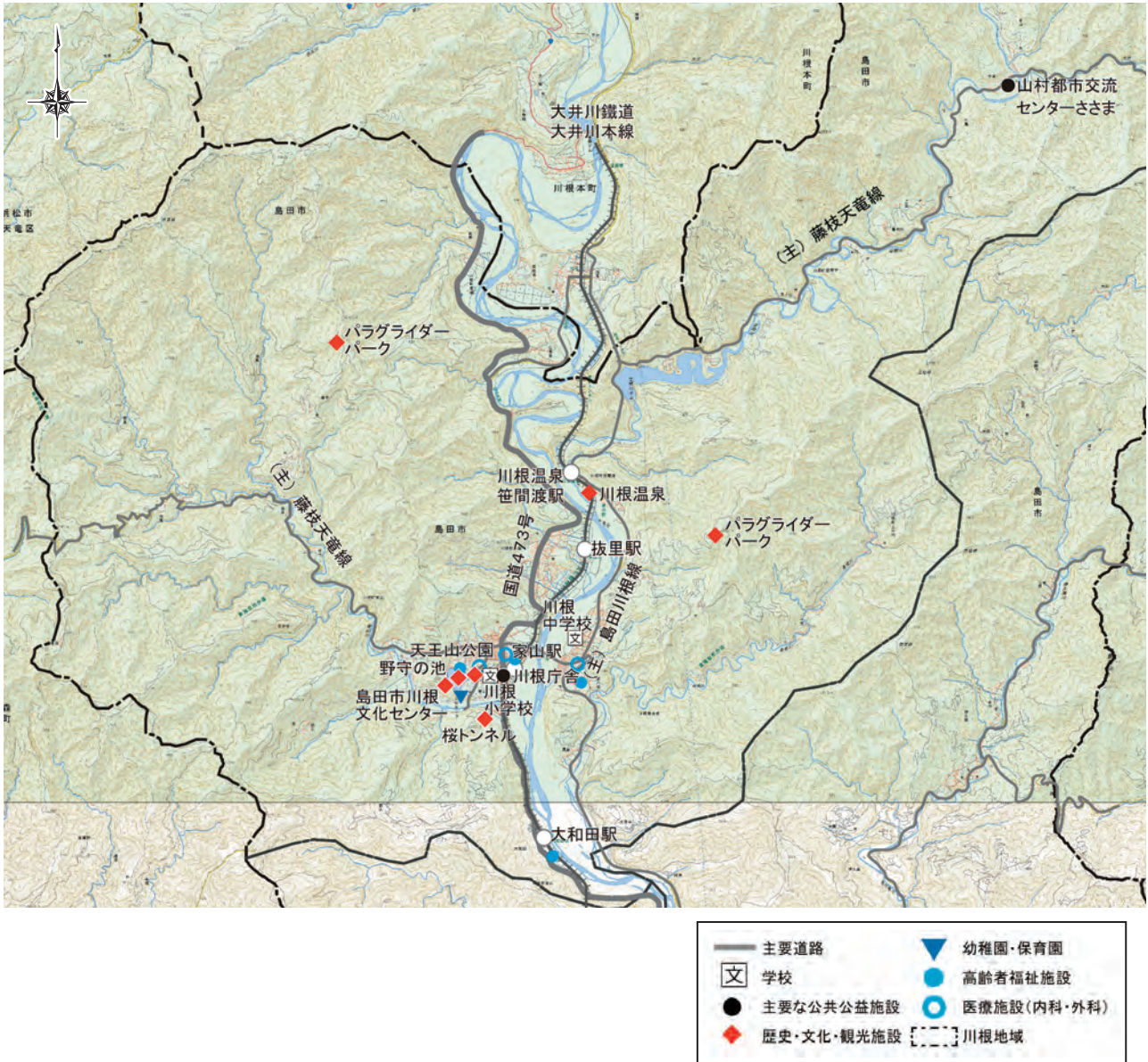


国土地理院 1/25,000 地形図を加工

(2) 都市施設・公共公益施設などの状況

- ・幹線道路として、国道473号、(主) 島田川根線、(主) 藤枝天竜線が骨格を形成しています。
- ・大井川鉄道大井川本線が地域の南北を縦断しています。
- ・家山駅周辺に小学校、川根庁舎などの公共公益施設が分布しています。
- ・川根温泉や山村都市交流センターささまなど観光・交流施設が分布しています。

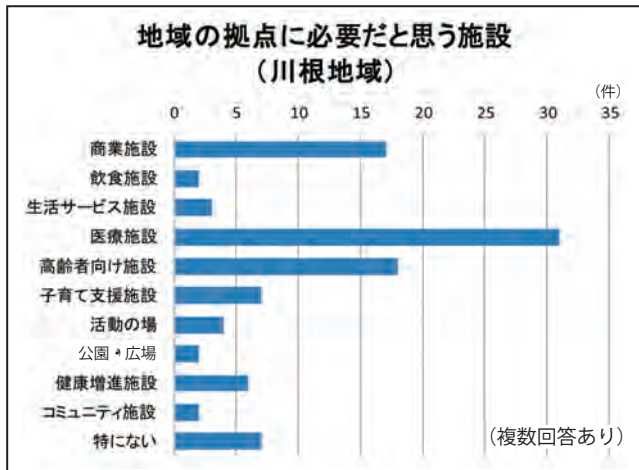
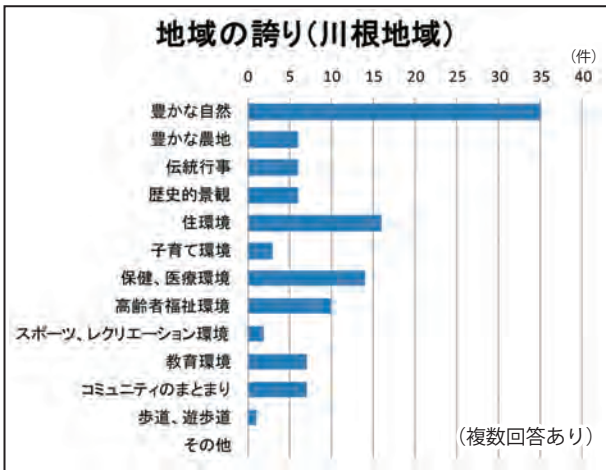
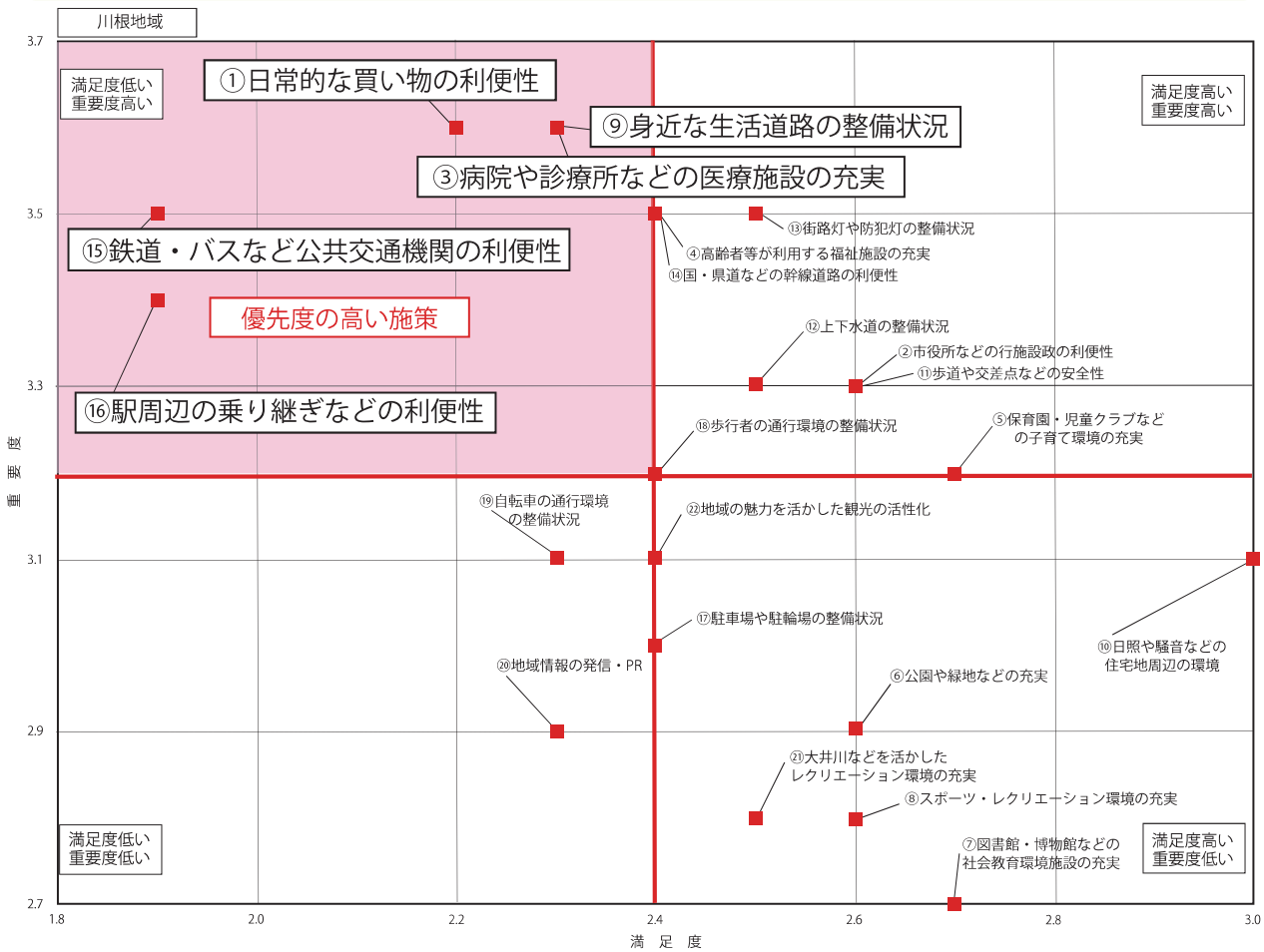
都市施設・公共公益施設図



(3) 都市計画マスタープラン市民意識調査結果 (川根地域回答数44)

- ・地域のまちづくりにおける重要度・満足度から読み取れる優先度の高い施策については、日常の買い物の利便性、医療施設の充実、生活道路の整備、公共交通機関の利便性、駅周辺の乗り継ぎの利便性などが挙げられています。
- ・地域の誇りについては、「豊かな自然」、「住環境」、「保健、医療環境」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「医療施設」が最も多く、次いで「高齢者向け施設」、「商業施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 川根地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

- ・地域拠点：家山駅周辺
- ・集落拠点：山村都市交流センターささま周辺

【その他の拠点】

- ・観光・交流拠点：川根温泉周辺

【軸】

- ・自然の骨格軸：大井川
- ・都市間連絡軸（道路）：国道473号
- ・拠点間連絡軸（道路）：（主）島田川根線
- ・集落間連絡軸（道路）：（主）藤枝天竜線
- ・拠点間連絡軸（鉄道）：大井川鐵道大井川本線



5 川根地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、地域拠点や集落拠点を中心に、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図る必要があります。
- 道路整備・維持管理を進め、地域の交通環境の改善を図る必要があります。
- 効果的・効率的な地域公共交通網を形成する必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、まとまった農地などの保全・活用を図る必要があります。また、これらの自然環境のほか、野守の池や桜トンネル周辺の良好なまちなみ、社寺などの歴史資源などを含め、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。

6 地域づくりの方針

【川根地域】

(1) 拠点づくりの方針

ア 地域拠点における生活サービスやコミュニティの維持

地域拠点については、公共施設が集積する家山駅周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

笹間地区における集落拠点については、山村都市交流センターささま周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

家山駅周辺



家山駅



川根支所

(2) 土地利用の方針

ア 地域拠点周辺における快適な居住環境の形成

地域拠点周辺については、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

イ 集落地環境の保全

集落地については、自然と調和した暮らしを望む市民ニーズを踏まえ、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

ウ 空き地・空き家の利活用

今後増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションによる地域住民の交流の場などとしての活用や空き家バンクなどによる所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

(3) 交通の方針

ア 地区内幹線道路の整備

地域拠点と集落拠点を結ぶ県道や川根地域と中心地域・金谷地域とを結ぶ国道・県道について、道路整備を県に働きかけるとともに、災害時の避難路の確保を図ります。



イ 生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえつつ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設（ガードパイプ）、路面標示などの整備を推進します。

ウ 交通結節点の整備

家山駅などにおいて、鉄道とバスなどの乗り継ぎの利便性を高める取り組みに努めます。

エ バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、スクールバスの混乗利用を推進するとともに、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的にはICTなどを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

ア 水害対策の推進

大井川、家山川、笹間川などについては、緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

イ 土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

ウ 治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

エ 学校などにおける地域交流機能の充実

地域活動や生涯学習の支援については、学校などの施設を地域に開放し利用を促進するとともに、地域の防災拠点として活用します。

オ 各種コミュニティ施設の活用

地域のコミュニティ機能については、地区センターなどを生涯学習や市民活動・交流の拠点として、また地域子育て支援センターなどを子育て支援の拠点として活用します。



(5) 活力・魅力づくりの方針

ア 家山地区の魅力向上

大井川、家山川、野守の池などについては、良好な水辺の環境づくりや景観整備を進め、桜トンネル、家山緑地公園、天王山公園などの桜の名所については保全に努めます。また、家山駅から天王山、野守の池をつなぐ回遊性のある、歩いて楽しい散策ネットワークの形成を図ります。

家山駅周辺の魅力向上のイメージ（市民会議より）



野守の池



天王山公園からの眺望



イ 川根温泉周辺の魅力向上

川根温泉周辺を観光・交流拠点と位置付け、家山地区と連携しつつ、地域に分布する自然・歴史資源の保全・整備を進めるとともに、新たな地域資源の開発やネットワーク化を図り、観光客の回遊性を高めます。

ウ 山村都市交流センターささまなどにおける地域の魅力向上に向けた取り組みの促進

山村都市交流センターささまについては、地域資源の活用を通じて、交流人口・関係人口の拡大に向けた、農林業体験やグリーンツーリズムなどの交流事業を促進します。

また、市民主体による地域の魅力向上に向けた取り組みについて支援します。

山村都市交流センターささま



エ アウトドアレジャーの充実

川根地域においては、キャンプ、カヤック、パラグライダー、乗馬など、自然を活かしたアウトドアレジャーの受入れ態勢の強化のため、大井川流域の市町と連携を図ります。

オ 大井川の活用

大井川については、自然を損なうことがないように、良好な維持管理を図るとともに、河川敷内の施設の維持管理に努めます。

カ 観光資源のネットワーク化

大井川の清流や里山、大井川鐵道のSLや温泉等の地域の魅力的な資源の活用により、観光客の回遊性、滞在性を高めるよう考慮します。

大井川流域の観光団体などと連携してサイクルツーリズムの情報発信を行い、自転車による観光ネットワーク化の促進を図ります。

キ 移住・定住の促進及び交流・関係人口の拡大

空き家のリノベーションを支援するなどして、移住・定住の受け皿として利活用を促進するとともに、自然型体験ができる農家民宿や民泊の普及促進について検討します。

(6) 環境との調和の方針

ア 農業環境の保全

本市の基幹作物である茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保安全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

イ 森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対し必要に応じて支援します。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を促進します。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。

ウ 良好な地域景観の保全

桜や茶畑などの農山村風景といった川根地域ならではの景観については、地域の重要な資源として位置付け、魅力を高める取り組みを進めながら保全に努めます。

また、鷓山の七曲りなど大井川の特徴的な自然景観を眺望できる展望施設の充実や来訪者にわかりやすい案内板などの設置を推進します。

川根地域 将来構想図



	集落地		以下、構想に係わるもの
	森林・緑地		地域拠点
	農地		集落拠点
	学校(現況)		観光・交流ゾーン
	主要な公共施設(現況)		交通結節点
	歴史・文化・観光施設		その他の主要道路
	大井川鉄道大井川本線		公共交通拠点間路線(多様な交通手段)
			公共交通地域間路線(多様な交通手段)
			歩行者・自転車ネットワーク

